

# 第1学年 国語科学習指導案

1年1組 34名  
指導者 森 美帆

## 1 単元名 ようこそ！おはなしランドへ

『むかしばなしをよもう』『おかゆのおなべ』（光村図書）

## 2 指導にあたって

### (1) 単元設定の理由

小学校入門期は、「物語の世界に住む」という読みの発達段階にあるといわれる。1年生の学習者は、物語の世界に身を置き、物語の世界を現実の世界のように捉える。単元「みんなでぬこうおおきなかぶ」（学習材『おおきなかぶ』）の学習では、それぞれの登場人物と一緒にかぶを抜き、「力いっぱい抜いて、体が熱くなってきた」と発言した学習者がみられた。そして、かぶが抜けたときには、飛び跳ねて喜んだ。単元「くもにのっていこう」（学習材『くじらぐも』）の学習では、「子どもたち」と一緒になって雲に乗り、雲の上から見える景色や風、「くじらぐも」との会話を楽しんだ。学習者は、これまで様々な本に出会い、読み聞かせを楽しんできた。物語に出てくる言葉や動きをまねたり、読み聞かせを聞いた本を繰り返し読んだりする学習者の姿がみられるようになった。しかし、たくさんの本の中から、読みたい本を見付けて読んだり、読んだ本の感想を伝え合ったりする学習にはまだ取り組んでいない。そこで、自身の関心、読書力にあった本を進んで手に取り、読むことができるようにする指導を行いたいと考えた。たくさんの本の中から読みたい本を見付けて、読書の楽しさに浸る経験や読んで感じたことを共有する経験をさせたい。同時に、登場人物の行動や会話について具体的に想像し、登場人物との対話を通して感想をもつことができるようにしたいと考え、本単元を設定した。

本単元では、学習材『むかしばなしをよもう』『おかゆのおなべ』（光村図書1年下）を扱う。昔話は、人々によって語り継がれてきたもので、声に出して読みたい言葉や魅力的な登場人物、おもしろいことや不思議なことが次々に起こる物語の展開もみられ、ところへだて、ときをへだて、自分たちが直接体験をすることができない世界に遊ぶことができる学習材である。

本単元における学習者の活動目標は、「おはなしランド」をつくることである。「おはなしランド」とは、お気に入りの昔話の世界を表した「おはなしのおうち」を集めたものである。「おはなしのおうち」の中に貼る「登場人物カード」には登場人物の紹介を、「吹き出しカード」には1番関心を寄せた場面をつぶやいたことを書く。お気に入りの昔話から想像したことや感じたことを伝え合うことによって、それぞれの学習者がもつ物語の世界のイメージをふくらませることができるようにする。学習者同士の対話を通して、互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりする中で、共有することの楽しさやよさを実感することができるようにする。読むということは、言葉を手がかりに想像力を働かせて、イメージを描くことである。文章を読んで、学習者それぞれが言葉を手がかりにイメージをいきいきと描きながら、豊かに感じるという読書の基盤をはぐくんでいきたい。さらに、本を読む意欲を高め、日常の読書生活指導へとつなげていきたい。

### (2) 言葉による見方・考え方を働かせ、考えを形成し、共有する指導の工夫

関心を寄せた場面をつぶやく際には、自分自身の分身として捉えたペープサートを用いて、本文の言葉や挿絵を手がかりに物語の世界に遊び、臨場感のある自分自身の言葉を表出することができるようにする。

ペアや学級全体で共有する際には、楽しいごっこ遊びのような雰囲気の中で、ふだんの話し言葉で伝え、聞き合うことができるようにする。また、学習者の発言を登場人物や風景、物などの視点ごとに整理して板書することによって、物語を読んで描いたイメージを豊かにし、自らの考え（つぶやき・言葉・表現など）を再形成することができるようにしたい。そして、互いの思いを分かち合い、様々な感じ方や考え方に合うことの楽しさを味わわせたい。

## 3 単元の目標

(1) 活動目標 「おはなしランド」をつくろう

(2) 指導目標と単元の評価規準

指導目標	評価規準	評価の観点
○読書に親しみ、いろいろな昔話があることを知ることができるようにする。	○読書に親しみ、いろいろな昔話があることを知っている。	〔知識・技能〕 (3)エ
○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができるようにする。	○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	〔思・判・表〕 C読むことエ
○文章を読んで感じたことを共有することができるようにする。	○「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。	〔思・判・表〕 C読むことカ
○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	○進んで、文章を読んで感じたことを共有し、自分の選んだ昔話のよさやおもしろさを伝えようとしている。	主体的に学習に取り組む態度

4 単元の構想と評価計画

学習活動と学習者の意識 (全15時間)	主な指導・支援	評価規準
<p><b>事前 学級で昔話を読む。</b></p> <p>『おむすびころりん』でねずみと一緒に歌を歌って楽しかったな。</p> <p>わたしは、『白雪姫』のお話が好きだよ。読み聞かせしてくれた。</p> <p>2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p>	<p>○ 2年生から昔話の紹介カードをもらって、高学年の図書室に貼る。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p>	
<p><b>第一次 学習の計画を立てる。・・・2時間</b></p> <p>①「おはなしランド」をつくることを確認する。</p> <p>「おはなしのおうち」を集めて、「おはなしランド」をつくりたい。</p> <p>どの昔話のおうちをつくらうかな。お姫様とお話したいな。</p> <p>完成した「おはなしランド」を2年生に見せたいな。楽しみだな。</p> <p>②「おはなしランド」をつくる計画を立てる。</p> <p>まずは、昔話の登場人物をカードに書くんだね。登場人物に言いたいことを書きたい。おうちをつくらう。</p> <p>「おはなしランド」の上をくじらぐもが泳いでいるよ。おうちが集まって町ができていくのが楽しみだ。</p> <p>2年生にどんなおうちをつくらうのか紹介したいな。クラスみんなのおうちも見てみたい。</p>	<p>○ 2年生から昔話の紹介カードをもらって、高学年の図書室に貼る。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p>	
<p><b>第二次 『おかゆのおなべ』を読んで、「おはなしのおうち」をつくる。・・・6時間(本時5/6)</b></p> <p>①お気に入りの昔話を3冊決める。</p> <p>『アリババ...』の「ひらけごま」を言ってみよう。</p> <p>白雪姫と人魚姫とシンデレラとお話したいな。</p> <p>『3枚のお札』が一番好きだな。2年生と同じだ。</p> <p>②『おかゆのおなべ』を読む。</p> <p>「うんじゃら、うんじゃら」っておもしろい言葉だ。</p> <p>おかあさんは、呪文を忘れて、忘れんぼうだな。</p> <p>おかゆだらけになったところがおもしろいな。</p> <p>③『おかゆのおなべ』を読んで、登場人物カードを書く。</p> <p>おばあさんが出てくるよ。魔法使いかな。</p> <p>優しくてかっこいい女の子が出てくるね。</p> <p>わすれんぼうのお母さんもいるよ。書こう。</p> <p>④『おかゆのおなべ』の吹き出しカードを書く。</p> <p>「うんじゃら...」っておもしろいね。へんな音だね。</p> <p>お母さん、困っているから、わたしが教えるよ。</p> <p>おかゆが、おいしそう。どんな味がするのかな。</p> <p>⑤『おかゆのおなべ』の吹き出しに書いたことを伝え合い、吹き出しカードを完成させる。</p> <p>「なべさんなべさん、やめとくれ」っておもしろい。「とめとくれ」だよ。</p> <p>同じところでも言っていることが違うな。○○さんのまねしたい。</p> <p>この絵の登場人物とも話したいな。カードを増やそう。</p> <p>⑥「おはなしのおうち」を完成させ、「ようこそ！おはなしランドへ」の発表の仕方を知る。</p> <p>「おはなしのおうち」には、このカードを選ぼう。</p> <p>『おかゆのおなべ』のおうちができてうれしいな。</p> <p>○○くんのように、伝えたらいいんだね。</p>	<p>○ 2年生から昔話の紹介カードをもらって、高学年の図書室に貼る。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p>	<p>○ 読書に親しみ、いろいろな昔話があることを知っている。(読書の記録、ワークシート)</p> <p>○ 場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話を具体的に想像している。(カード、発言)</p> <p>○ 文章を読んで感じたことを共有している。(カード、発言)</p>
<p><b>第三次 お気に入りの昔話の「おはなしのおうち」をつくる。・・・3時間</b></p> <p>①お気に入りの昔話を1冊に決め、自分が選んだ昔話を読んで、登場人物カードを書く。</p> <p>『はなさかじいさん』にしたい。</p> <p>人魚姫と王子と魔女が出てくる。</p> <p>『3枚のお札』は、小僧と...</p> <p>②自分が選んだ昔話の吹き出しカードを書く。</p> <p>はなさかじいさん、悲しいね。ぼくも悲しいよ。</p> <p>王子様、気付いて。本当は、人魚姫が助けたのに。</p> <p>山姥に食べられるのは、いやだよ。早く逃げて。</p> <p>③「おはなしのおうち」を完成させる。</p> <p>花を咲かせたおじいさんと話したカードを選ぼう。</p> <p>人魚姫のおうちは、悲しいけどすてきなおうち。</p> <p>完成してうれしいな。みんなのおうちも見たい。</p>	<p>○ 2年生から昔話の紹介カードをもらって、高学年の図書室に貼る。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p>	<p>○ 読書に親しみ、いろいろな昔話があることを知っている。(読書の記録、ワークシート)</p> <p>○ 場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話を具体的に想像している。(カード、発言)</p> <p>○ 文章を読んで感じたことを共有している。(カード、発言)</p>
<p><b>第四次 「ようこそ！おはなしランドへ」をつくる。・・・3時間</b></p> <p>①どんな町ができるか考えて、「おはなしランド」をつくる。</p> <p>世界の昔話の町と日本の昔話の町ができるね。</p> <p>幸せなお話の家を集めて、幸せトリートだ。</p> <p>わたしの「おはなしのおうち」はここに建てたい。</p> <p>②「ようこそ！おはなしランドへ」の練習をする。</p> <p>おじいさんにどうして花が咲くと聞いたよ。</p> <p>人魚姫は王子様思っただね。優しいなと思ったよ。</p> <p>ぼくだったら、そんなことは思いつかないよ。</p> <p>③「ようこそ！おはなしランドへ」を開く。</p> <p>花を咲かせたおじいさんとお話をしたよ。</p> <p>人魚姫の王子様を助けたのは人魚姫と教えたい。</p> <p>2年生と昔話のお話ができうれしいな。</p>	<p>○ 2年生から昔話の紹介カードをもらって、高学年の図書室に貼る。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p>	<p>○ 読書に親しみ、いろいろな昔話があることを知っている。(読書の記録、ワークシート)</p> <p>○ 場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話を具体的に想像している。(カード、発言)</p> <p>○ 文章を読んで感じたことを共有している。(カード、発言)</p>
<p><b>第五次 学習の振り返りをする。・・・1時間</b></p> <p>①「ようこそ！おはなしランドへ」の振り返りカードを書く。</p> <p>登場人物とお話するのが楽しいな。また、お話ししたいな。</p> <p>「おはなしランド」が完成して、2年生も褒めてくれてうれしいな。</p> <p>他の昔話をもっと読みたい。次は、このお話をよんでみよう。</p>	<p>○ 2年生から昔話の紹介カードをもらって、高学年の図書室に貼る。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p> <p>○ 2年生が昔話の紹介カードをくれたよ。ぼくも読んでみたい。</p>	<p>○ 読書に親しみ、いろいろな昔話があることを知っている。(読書の記録、ワークシート)</p> <p>○ 場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話を具体的に想像している。(カード、発言)</p> <p>○ 文章を読んで感じたことを共有している。(カード、発言)</p>

## 5 本時の学習

### (1) 本時の指導について

本時は、関心を寄せた場面でのつぶやきを伝え、聞き合うことを通して、他の学習者の発言や板書を手がかりに、吹き出しカードを完成させることを指導者のねらいとする。

ペアや学級全体で伝え合う際には、1番関心を寄せた場面の挿絵とペープサートを用い、楽しいごっこ遊びのような雰囲気の中で、互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりすることができるようにする。

また、学習者の発言を視点ごとに整理して板書することによって、物語を読んで描いたイメージを豊かにし、自らの考え（つぶやき・言葉・表現など）を再形成し、吹き出しカードを完成することができるようにしたい。

### (2) 目標

#### ①活動目標

吹き出しカードを完成させよう。

#### ②指導目標

文章を読んで感じたことを共有することができるようにする。

### (3) 展開

学習活動	主な指導・支援	具体的評価規準
<p>1 前時の学習を想起し、本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ふき出しカードをかんせいさせよう。</p> </div>	<p>1 前時の振り返りをし、本時に学習することを確認する。 ○前時の学習でカードに書いた内容について振り返り、本時のめあてを確認する。</p>	
<p>2 自分が描いたイメージをもとに書いた吹き出しカードの言葉をペアで伝え合う。 ・いいにおいがしてきたよ。 ・おかゆがあふれてきたよ。ぼくの腰の辺りまできた。助けて。</p>	<p>2 ペープサートを持ち、ごっこ遊びのような雰囲気の中で、対話することができるようにする。</p>	
<p>3 自分が描いたイメージをもとに書いた吹き出しカードの言葉を全体で伝え合う。 ・ぼくもいいにおいがしてきた。おなかですいてきたね。 ・おかゆのプールみたいだね。 ・温かいから、おかゆの温泉みたいだ。</p>	<p>3 学習者の発言を整理して板書することによって、物語を読んで描いたイメージを広げ、豊かに想像することができるようにする。 ○登場人物や風景、物などの視点ごとに整理して板書する。</p>	
<p>4 他の学習者の発表を聞いて、自分のカードを読み返し、吹き出しカードを完成させる。</p>	<p>4 板書の言葉などを手がかりに吹き出しカードを完成させることができるようにする。 ○さらにつぶやきたいことがある学習者には、カードの言葉を付け足したり、新たなカードに書いたりするよう、助言する。</p>	

### (4) 本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりすることのよさに気づき、他の学習者の考えを取り入れたり、自分の考えをさらに深めたりすることができている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための手立て	・板書で示された他の学習者の発言を手がかりに、吹き出しカードを完成させることができるようにする。